



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月12日

上場会社名 株式会社木曽路 上場取引所 東 名
コード番号 8160 URL <https://www.kisoji.co.jp/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）中川 晃成
問合せ先責任者 （役職名）経理部長 （氏名）奥野 慎太郎 TEL 052-872-1811
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績（2026年4月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2027年3月期第1四半期	11,946	△0.4	△238	—	△222	—	△131	—
2026年3月期第1四半期	11,991	1.8	△74	—	△59	—	△51	—

（注）包括利益 2027年3月期第1四半期 △31百万円（－％） 2026年3月期第1四半期 △57百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	△4.66	—
2026年3月期第1四半期	△1.82	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2027年3月期第1四半期	47,230	31,132	65.9
2026年3月期	48,498	31,586	65.1

（参考）自己資本 2027年3月期第1四半期 31,132百万円 2026年3月期 31,586百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
2027年3月期	—				
2027年3月期（予想）		15.00	—	15.00	30.00

（注）1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2027年3月期の連結業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
第2四半期（累計）	24,500	0.4	△90	—	△75	—	△140	—	△4.97
通期	55,000	0.8	3,200	9.8	3,250	11.0	2,100	21.5	74.58

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期1Q	28,543,889株	2026年3月期	28,543,889株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	384,409株	2026年3月期	384,090株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2027年3月期1Q	28,159,512株	2026年3月期1Q	28,160,559株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、〔添付資料〕3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(四半期連結損益計算書に関する注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間（2026年4月1日～2026年6月30日）におけるわが国経済は、物価上昇や原油価格の高止まり等の影響を受けたものの、企業収益や雇用環境が底堅く推移し、サービス消費にも持ち直しの動きがみられるなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、物価高の長期化や地政学リスク、為替相場の変動等により、先行きは依然として不透明な状況となっております。

外食産業におきましては、ゴールデンウィークを中心とした行楽需要やサービス消費の回復を背景に、外食需要は底堅く推移いたしました。一方で、消費者の節約志向や選別消費の傾向が強まる中、提供する商品・サービスの付加価値向上が重要となっております。さらに食材価格や物流費、エネルギー価格の高止まりに加え、人材確保に伴う人件費の増加等により、引き続き、厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社グループは、主力業態であるしゃぶしゃぶ・日本料理の「木曽路」部門において、料理品質及び接客品質のさらなる向上に努めるとともに、慶事・法事、ご家族での会食、企業宴会など、同業態の強みを活かした需要獲得に取り組んでまいりました。また、木曽路業態60周年を記念した特別企画の展開や、主力商品であるしゃぶしゃぶを中心とした販売促進を実施し、来店動機の創出に努めてまいりました。

特に、「お食い初め」「一升餅」などのお子様のお祝いをはじめ、新入学・就職、結婚、長寿のお祝いなどの慶事・祝事需要に対しては、社内マイスター制度を活用したお祝いの場にふさわしい所作やきめ細やかなおもてなしの提供に努めました。これによりご家族の大切な節目を安心してお任せいただける体制を整え、「ハレの日」需要の更なる深耕に取り組んでまいりました。あわせて、季節メニュー、しゃぶしゃぶコース、会席コース、お昼の新メニュー、夜の御膳料理など、幅広い利用シーンに応じた商品提案を推進し、売上高の拡大に努めてまいりました。

費用面におきましては、食材価格やエネルギー価格の高止まりに対応するため、仕入先・調達方法の見直しや適正在庫の維持、廃棄ロスの削減、商品構成の改善等に取り組み、原価率の適正化に推進してまいりました。また、来客動向を踏まえた人員配置の適正化や勤務シフトの精度向上、店舗オペレーションの見直し等を通じて、店舗運営の効率化を図ってまいりました。さらに、光熱費や消耗品費等の各種経費につきましても、使用状況の確認や省エネ機器の活用等により収益性の改善に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、119億46百万円（前年同期比 0.4%減少）、営業損益は2億38百万円の損失（前年同期実績 74百万円の損失）、経常損益は2億22百万円の損失（同 59百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損益は1億31百万円の損失（同 51百万円の損失）となりました。

なお、働き方改革の一環として株式会社木曽路において、5月に業態ごと2日間の全店休業を実施いたしました。今後も働きやすく魅力ある企業づくりに努めてまいります。

(2) 当四半期の財政状態の概況

資産、負債及び純資産の状況

	前連結会計年度 (2026年3月31日現在)	当第1四半期会計期間 (2026年6月30日現在)	増 減
総資産（百万円）	48,498	47,230	△1,268
純資産（百万円）	31,586	31,132	△454
自己資本比率（%）	65.1	65.9	0.8
1株当たり純資産（円）	1,121.70	1,105.59	△16.12

当第1四半期連結会計期間末の総資産は472億30百万円（前連結会計年度末比 12億68百万円の減少）となりました。この主な内訳は、流動資産が192億39百万円、有形固定資産が167億35百万円、無形固定資産が16億78百万円、投資その他の資産が95億76百万円であります。前連結会計年度末からの主な減少要因は、流動資産が15億71百万円の減少となったことによるものであります。

一方、負債合計は160億97百万円（同 8億13百万円の減少）となりました。この主な内訳は、流動負債が130億25百万円、固定負債が30億72百万円であります。前連結会計年度末からの主な減少要因は、未払法人税等が4億43百万円の減少となったことによるものです。また、当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は311億32百万円（同 4億54百万円の減少）となりました。この主な内訳は資本金が126億48百万円、資本剰余金が124億67百万円、利益剰余金が53億52百万円であります。前連結会計年度末からの主な減少要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失1億31百万円の計上、前期末配当金4億22百万円の支払いによるものであります。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は65.9%（前連結会計年度末は65.1%）、1株当たり純資産額は1,105.59円（同 1,121.70円）となりました。

（部門別売上高）

部門	事業内容	前第1四半期累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）	当第1四半期累計期間 （自 2026年4月1日 至 2026年6月30日）	前年同期比 増減率
木曽路 部門	しゃぶしゃぶ・日本料理「木曽路」	9,370百万円	9,349百万円	△0.2%
焼肉部門	特選和牛「大將軍」 国産牛焼肉「くいどん」	1,910	1,813	△5.1%
その他 部門	居酒屋「大穴」「とりかく」	300	364	21.3%
	和食旬彩処「鈴のれん」	161	169	4.6%
	その他	343	336	△2.3%
調整額		△95	△85	—
合 計		11,991	11,946	△0.4%

（注）部門別売上高は連結取引高の相殺消去前の数値であります。

木曽路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理「木曽路」業態は、2店舗の改装を行い、当第1四半期連結会計期間末店舗数は126店舗となりました。営業面では、料理品質及び接客品質のさらなる向上に努めるとともに、同業態の強みである慶事・法事、ご家族での会食、企業宴会などの需要獲得に取り組んでまいりました。

特に、「お食い初め」「一升餅」などのお子様のお祝いに対しては、社内マイスターによるお祝いの場にふさわしい所作やきめ細やかなおもてなしを通じて、ご家族の大切な節目を安心してお任せいただける体制づくりを進め、「ハレの日」需要の深耕に取り組んでまいりました。また、木曽路業態60周年特別企画として「ごちそうしゃぶしゃぶ3,900円（サンキュー）コース」を展開するなど、主力商品を中心とした積極的な販売促進を実施したほか、季節の献立やお昼の新メニュー、夜の御膳料理など、利用シーンに応じた多彩な商品提案を行うことで、来店動機の創出と売上高の増加に努めてまいりました。

しかしながら、売上高は93億49百万円（前年同期比 0.2%減少）となりました。

焼肉部門

特選和牛「大將軍」及び国産牛焼肉「くいどん」は、店舗の異動がなく、当第1四半期連結会計期間末店舗数は44店舗となりました。自社食肉加工工場を活かした品質の向上に加え、「大將軍」及び「くいどん」それぞれの業態特性に応じた商品提案や販売促進に取り組んでまいりました。

「大將軍」におきましては、黒毛和牛をはじめとした品質の高い商品提供や、個室を活用した接待・ご家族利用などの需要獲得に努めてまいりました。「くいどん」におきましては、6月より「特上満喫コース」を追加し、利用シーンに応じて選べる焼肉コースを拡充するなど、商品力の向上に取り組んでまいりましたが、売上高は18億13百万円（同 5.1%減少）となりました。

その他部門

居酒屋「大穴」及び「とりかく」業態は、店舗の異動がなく、当第1四半期連結会計期間末店舗数は10店舗となりました。「大穴」業態におきましては、寿司・串料理・おでん等を大衆価格で提供し、少人数利用から宴会需要まで幅広い利用シーンの獲得に努めてまいりました。前期2店舗の出店もあり、売上高は3億64百万円（同 21.3%増加）となりました。

和食旬彩処「鈴のれん」業態は、1店舗の改装を行い、当第1四半期連結会計期間末店舗数は5店舗であります。御膳料理を中心とした商品展開により、日常利用やご家族利用の需要獲得に努めてまいりました。その結果、売上高は1億69百万円（同 4.6%増加）となりました。

その他業態は、食肉加工卸売、からあげ専門店「からしげ」、物販（しぐれ煮、胡麻だれ類）等であり、売上高は3億36百万円（同 2.3%減少）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年5月13日に公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,268	14,020
売掛金	1,949	1,544
有価証券	100	100
商品及び製品	17	33
原材料及び貯蔵品	2,828	2,712
その他	647	829
貸倒引当金	△1	△0
流動資産合計	20,810	19,239
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,359	8,354
土地	6,027	6,027
その他（純額）	2,238	2,353
有形固定資産合計	16,626	16,735
無形固定資産		
のれん	979	944
その他	760	733
無形固定資産合計	1,739	1,678
投資その他の資産		
差入保証金	3,939	3,944
その他	5,413	5,663
貸倒引当金	△30	△30
投資その他の資産合計	9,321	9,576
固定資産合計	27,687	27,990
資産合計	48,498	47,230

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,544	1,195
短期借入金	7,000	7,200
1年内返済予定の長期借入金	117	92
未払法人税等	565	122
賞与引当金	633	304
その他	3,969	4,110
流動負債合計	13,830	13,025
固定負債		
長期借入金	67	50
退職給付に係る負債	1,310	1,328
資産除去債務	1,332	1,321
その他	370	371
固定負債合計	3,080	3,072
負債合計	16,911	16,097
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,648	12,648
資本剰余金	12,467	12,467
利益剰余金	5,905	5,352
自己株式	△936	△937
株主資本合計	30,084	29,530
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,503	1,603
退職給付に係る調整累計額	△0	△1
その他の包括利益累計額合計	1,502	1,602
純資産合計	31,586	31,132
負債純資産合計	48,498	47,230

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	11,991	11,946
売上原価	3,759	3,688
売上総利益	8,231	8,258
販売費及び一般管理費	8,306	8,496
営業損失(△)	△74	△238
営業外収益		
受取利息	4	4
受取配当金	32	50
その他	2	7
営業外収益合計	38	61
営業外費用		
支払利息	14	19
賃貸借契約解約損	—	22
その他	9	2
営業外費用合計	23	45
経常損失(△)	△59	△222
特別利益		
固定資産売却益	174	1
特別利益合計	174	1
特別損失		
固定資産除売却損	30	14
特別損失合計	30	14
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	84	△236
法人税、住民税及び事業税	27	41
法人税等調整額	108	△147
法人税等合計	135	△105
四半期純損失(△)	△51	△131
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△51	△131

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純損失(△)	△51	△131
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5	100
退職給付に係る調整額	△0	△0
その他の包括利益合計	△6	100
四半期包括利益	△57	△31
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△57	△31
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）

当社グループは、料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店のほか付随的に外販・不動産賃貸等を営んでおりますが、飲食店としての事業がほとんどを占めており実質的に単一セグメントのため、記載を省略しております。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2026年4月1日 至 2026年6月30日）

当社グループは、料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店のほか付随的に外販等を営んでおりますが、飲食店としての事業がほとんどを占めており実質的に単一セグメントのため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書に関する注記)

当社グループの売上高は、通常の営業形態として、主力商品である「しゃぶしゃぶ」の需要が年末年始を含めた冬季に高まるため、通常、第3及び第4四半期連結会計期間の売上高は第1及び第2四半期連結会計期間の売上高と比べ高くなる傾向があり、営業利益も第3及び第4四半期連結会計期間に偏る傾向があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	390百万円	371百万円
のれんの償却額	35	34